報道発表資料
平成27年８月10日
気　　象　　庁

平成 27 年７月の地震活動及び火山活動について

平成27年７月の地震活動及び火山活動について解説します。

○　［地震活動］

・全国の地震活動

７月10日03時32分に岩手県内陸北部の深さ88kmでM5.7の地震が発生し、岩手県盛岡市で最大震度５弱を観測しました。

７月13日02時52分に大分県南部の深さ58kmでM5.7の地震が発生し、大分県佐伯市で最大震度５強を観測しました。

全国で震度３以上を観測した地震の回数は15回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は92回でした。

震度３以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙１のとおりです。また、世界の主な地震は別紙２のとおりです。

・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震活動

（平成 27 年７月の活動）

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震は、次第に少なくなってきているものの、当分の間、本震発生前に比べ活発な地震活動が続くと考えられ、注意が必要です。震度１以上を観測した地震は 47 回（最大震度４以上を観測した地震が０回）発生するなど、引き続き岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生しました。

国土地理院のＧＮＳＳ連続観測結果によると、引き続き東北地方から関東・中部地方の広い範囲で、徐々に小さくなってきてはいますが、余効変動と考えられる東向きの地殻変動が観測されています。

○　［火山活動］

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続しています。

新岳では、６月 19 日のごく小規模な噴火以降、噴火は観測されていませんが、火山性地震が時々多く発生しました。火山性微動は観測されていません。火山ガスはやや多い状態で経過しています。

24 日に九州地方整備局の協力により、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測では、新岳火口周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

今後も、５月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

箱根山の火山活動は活発な状態で経過しています。

７月１日 05 時頃に遠望カメラにわずかに火山灰の付着が認められたことから、６月 30

日から７月１日にかけて大涌谷でごく小規模な噴火が発生したとみられます。
今後も小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大涌谷周辺の概ね１km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

桜島の昭和火口では、爆発的噴火が 14 回発生するなど、噴火活動が継続しました。
桜島では、これまでの地殻変動観測から、山体が膨張した状態となっています。
昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島では、海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いています。
西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね２km の範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね４km 以内では噴火に警戒してください。

雌阿寒岳では、13 日頃からポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする微小な火山性地震が増加し、17 日以降は徐々に減少していましたが、26 日から再び増加しています。
27 日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測及び 28 日に実施した現地調査では、ポンマチネシリ第３・第４火口で地熱域が拡大し、96-1 火口では噴煙の勢いが増加しているのが認められました。
全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下では、2015 年３月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。
このように雌阿寒岳では火山活動は活発になっており、今後ごく小さな噴火が発生する可能性があることから、28 日 16 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引上げました。ポンマチネシリ火口から約 500ｍの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山では、大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が継続しています。大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね 500ｍの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

草津白根山では、湯釜付近の膨張を示す地殻変動動が認められていましたが、2015 年４月頃より鈍化しています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続しており、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられています。湯釜火口から概ね１km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山では、６月 19 日の噴火以降、噴火は観測されていません。
山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は多い状態が続いています。また、二酸化硫黄の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや高まった状態で経過しています。
今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね２ｋｍの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

御嶽山では、昨年（2014 年）10 月以降噴火が発生していないことから、昨年９月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。
19 日から 20 日にかけて一時的に火山性地震が増加し、短時間の火山性微動が観測されました。その後の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていませんが、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年９月 27 日よりも規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。
火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

阿蘇山の中岳第一火口では、今期間、噴火は観測されませんでした。
火山性微動の振幅は概ね大きな状態でしたが、14 日から小さくなっています。孤立型微動は多い状態で経過しています。火山性地震は時々発生しています。
中岳第一火口では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていることから、中岳第一火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（新燃岳）では、火口直下を震源とする火山性地震が時々発生しました。北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられていましたが、2015 年１月頃から停滞しています。火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島の御岳火口では、30 日と 31 日に小規模な噴火が発生しました。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

日本の主な火山活動の概況は別紙３のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙４のとおりです。

注１：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。
注２：国土地理院の GNSS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 27 年７月の地殻変動について」を参照願います。
http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2015-goudou0810.html
注３：気象庁の地震活動資料には、気象庁、防災科学技術研究所及び大学等関係機関のデータが使われています。
注４：地震活動及び火山活動の詳細については、「地震・火山月報（防災編）」平成 27 年７月号をご覧ください。
注５：平成 27 年８月の地震活動及び火山活動については、平成 27 年９月８日に発表の予定です。